

ションをして欲しい。

・OPAC の講習を早い時期にして欲しい。

これらは簡単に解決できないことも多く、要望や希望に沿えない点もありますが、出来るだけ解決していくよう検討していきたいと思います。

図書館に対する要望、質問等あれば、ご遠慮なくカウンターに申し出て下さい。

附属図書館では今回初めてオリエンテーションを開催したのですが、回収したアンケートのうち80%近くの参加者が、今後積極的に図書館を利用したいと回答しています。また、新入生向けであったにも関わらず院生等の参加も見られ、潜在的に図書館利用方法についてのオリエンテーションの要求があるものと考えられます。

今後図書館では、院生向けにももう少しレベルアップした、CD-ROM や情報検索などの講習会や、留学生向けのオリエンテーションも企画していく予定です。(参考調査掛)



目録検索講習会の実施

5月18日と19日の両日、午後3時から30分間にわたり、1Fカウンター前にてOPAC/ILIS (図書館目録検索システム) の検索講習会が開催されました。これは今年度初めて実施された新入生を対象とした図書館オリエンテーションの一環として行われたもので、参加者は18日が29名、19日が17名の合計46名でした。

説明は、まずOPAC/ILISの概要から始められ、実際の端末の操作方法については、説明者が検索画面を表示したボードを示し、それに応じて図書館員が8台の端末の前でオペレーションをするという方法で進められました。

参加人数も、実際の画面を見ていただくという点で適正であり、操作方法はよく理解していただけたと思います。

こうした機械検索は操作が簡単で、しかもあいまいな情報しか持っていないくても、求めるデータを得ることができるという点で、非常に優れています。

今回の講習会では時間の制約上、1通りの方法(書名・著者名によるキーワード検索)についてしか、説明することができませんでしたが、その他にも様々な方法で検索することが可能です。検索方法についてのご相談、機械のトラブル等につきましては、1階参考カウンターまでお越し下さい。

(参考調査掛)

教養部改革と図書館

一総合人間学部の発足一

平成4年10月1日、京都大学総合人間学部が設置されました。

昭和24年、新制京都大学の「分校」として発足以来43年、昭和29年分校を「教養部」と称し、昭和38年制度化された教養部は、ここにその歴史の幕を閉じました。

近年、全国のいくつかの大学で検討が進められ、また実施されてきた教養部改革は、本学では昭和40年代より各種検討委員会で議論されてきた経過をたどり今日に至ったものです。

一方、平成3年4月、独立研究科としてスタートした「大学院人間・環境学研究科」(第一専攻)と併せて、新しい時代に対応した自然と人間との調和を目指した学部「総合人間学部」が形成されました。

平成5年4月より学生受け入れの新学部は、4学科13講座、また、大学院人間・環境学研究科は昨年10月に設置された第二専攻と併せ2専攻17講座でそれぞれ構成されています。

総合人間学部

人間学科

人間基礎論講座

生活空間論講座

国際文化学科

文化構造論講座

文明論講座

言語文化論講座

日本・中国文化・社会論講座

欧米文化・社会論講座

基礎科学科

数理基礎論講座

情報科学論講座